

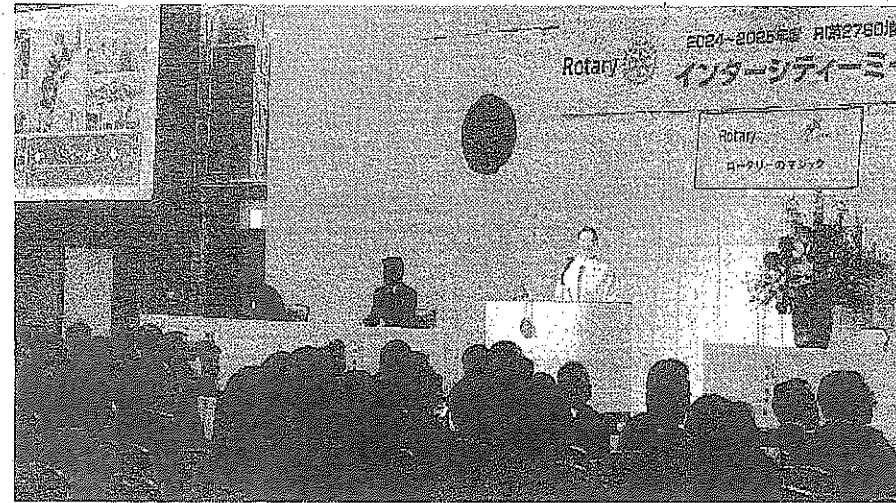


ロータリアンの品格について語る野田ガバナー補佐

R I 第2760地区 西三河中分区がIM

豊田三好、岡崎地区の10ロータリークラブ(RC)の会員が一堂に会して情報交換し、交流する「2024〜25年度国際ロータリー第2760地区西三河中分区インターシティミーティング(IM)」が、豊田市の名鉄トヨタホテルで開催された。岡崎、豊田、岡崎南、岡崎東、豊田東、岡崎城南、豊田三好、豊田中、愛知三州、豊田西の各RCから約310人が参加。活動報告や基調講演を行い、閉会後は懇親会で親交を深めた。

(三河・田中弥生)



4RCの代表者が注力する活動内容を発表した

全体の知識や経験が豊かになる。それがマジックとなつて地域社会にインパクトを与えたい」と語った。



基調講演する酒井バスターガバナー

4クラブが活動報告 酒井氏(バスター)の基調講演も

豊田西RC(杉浦栄二会長)がホストを務めた。IMでは、野田清衛ガバナー補佐が「ロータリーは生き、章ガバナーは「今回のテーマと死にざまを見せてもマは『ロータリーのマジックを価値観として共有すること、や課題を共有すること、

開催されるが、これもRCの企業、事業所による安定した税収のおかげ。愛知でもとりわけ元気な中分区のみなさんに今後も協力をお願いしたい」と述べた。各RCの活動発表では豊田東、愛知三州、豊田三好、

ロータリークラブ ライオンズクラブ

を発表した。基調講演はバスターガバナーの酒井法丈氏(豊田RC)。自身のロータリアンとしての経歴を紹介した後、RCの魅力、クラブの一体感、例会の大切さ、寄付事業の重要性、未来に向けた希望の五つをテーマに講演した。

閉会式では、次期ガバナー補佐やIMホストクラブを紹介。牧功・次期ガバナー補佐(愛知三州RC)は「創設8年の若いクラブに大役を頂いた。今後、各クラブを笑顔で訪問したい」と話した。閉会後は、懇親会が開催され、和やかなムードで交流した。